

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2137号 2012年11月12日(月曜日)

《 sharp drop of NY Dow 》

最後まで票が空かなかったフロリダ州までオバマがとったことにより、米大統領選挙は選挙人の数では現職のオバマ大統領が332（過半数は270）に達するという大勝になりましたが、マーケットは手荒い形で「オバマ再選」を迎えました。選挙後の水曜日と木曜日のニューヨークの株価はダウで合計433ドルも下げた。私の記憶にもあまりない次期大統領決定後の株価の大幅下げで、二期目のオバマ政権の先行きが厳しいことは明らかです。

ニューヨークの株価は金曜日にはかろうじて小反発となったものの、反発の幅は小さいし、重要なのはダウがしばらくの下値抵抗線だった1300ドルを下回っていること。先週後半の二日間にわたるニューヨーク株価下落の背景となった懸念は二つ。「財政の崖」と「ヨーロッパ経済の先行き」。「財政の崖」には当然ながら「また議会が捻れた」という現実がある。米議会は上院が民主、下院が共和支配になった。

前回（2年前）の中間選挙から数えると、議会に提出された4000前後の法案のうち「この二年間で通ったのは2%」と以前アメリカの新聞に書いてあった。それほど議会の捻れは法案の通過を難しくしている。だとしたら共和党が強烈に反対している富裕層への増税で今後の経済運営を考えているオバマ政権が「財政の崖」を乗り越えないのではないか、その結果来年のアメリカ経済が場合によってはマイナス3%にも達する縮小に向かうのではないか、というのがマーケットの懸念。

アメリカからの報道によると、この週末にオバマ大統領と米下院で多数派になった共和党のベイナード下院議長は「財政の崖」の乗り越え策に関して話し合いを持ったが、平行線だったと報じられている。オバマ大統領が選挙での勝利を背景に「富裕層（年収25万ドル以上）への増税」を主張したのに対して、下院議長は認められないという立場だったという。そこには経済政策運営に関する哲学論争の側面もあり、合意は出来たとしてもぎりぎりになる可能性が高い。

それにしても先週の選挙後から時間を見てはアメリカの今回の大統領選挙に関する記事を読んでいます。私が持った当初的印象は以下の通りです。

1. アメリカの大統領選挙では年々ヒスパニックの票をどのくらい集めるかが勝敗を分

ける鍵となって来ている。そう言えばブッシュが2期目も勝てたのは、彼がスペイン語を話せたことが大きかった

2. 今回はオバマ大統領が今年に入ってヒスパニックに有利な移民政策を発表している（選挙目当てででしょうが）、この措置がヒスパニックの圧倒的な「オバマ支持」に繋がった
3. 逆に言えば、政治的に言うならば「白人」、特にその男性は”少数派”になりつつあり、今後その傾向は強まるだろう

ということです。ウォール・ストリート・ジャーナルに面白い記事が載っていた。それによると今回の大統領選挙の出口調査では「投票者に占める白人」の割合は72%に過ぎなかった、という。1992年にはその割合は87%に達していた。72%は依然としてマジョリティですが、その中の女性は圧倒的にオバマ支持だった。

ではどのグループがシェアを伸ばしたのか。同紙によると1992年に全投票の2%にしか過ぎなかったヒスパニックの投票シェアは、今回は10%に達したという。20年の間に8%ポイントも伸びたことになる。そしてそのシェアは伸び続けるだろう。アメリカの新生児数を見ると、ヒスパニック系が急速に伸びており、一部の統計ではグループとしての白人を上回ったとなっていた。

《 casting vote 》

ということは、アメリカが徐々にヒスパニックが政治的にはキャスティング・ボートを握る国になる、ということです。今回もロムニーは白人の票の6割を得たようだ。白人男性だと70%を越える。にもかかわらず、ヒスパニック、アフリカ系アメリカ人、アジア系などの支持を受けていない。そして女性と若者から嫌われた。オバマは都市に強く、ロムニーは田舎に強かった。アメリカの都市には多様な民族が住む。アメリカの田舎と言われる中西部には圧倒的な数の白人が住み、今回の獲得選挙人の数を見ると、田舎では圧倒的にロムニーが有利だった。

と言う状況の中でアメリカの政治家は今後何を考えるだろうか。「ヒスパニックが歓迎してくれる政策は何か」「女性、若者が支持する政策とは何か」..... 多分今後のアメリカを考える上では、オバマ再選という事実以上に、なぜロムニーや共和党が勝てなかったのかを考えることの方が重要だろう。実際の所、私は今回の選挙結果を見て「共和党にとってショックなのではないか」と思う。直近では下がりつつあると言っても8%に近い失業率、最初の4年間でそれほど大きな業績を残したわけではない、そして4年前の熱狂が冷めたオバマにまた大統領選挙では負け、上院も勝てなかった。

なぜそうなのか。だとしたらヒスパニックの票が増えるアメリカで、せいぜいスペイン語を話す候補を探すのか。それとも政策を変えるのか。しかし安易に少数民族向けの政策を打ち出すことは、牙城である白人男性の票を失うというジレンマ。

「アメリカの政治的ランドスケープは大きく変わりつつある」というのが私の印象だし、もしアメリカという国が、政治的にラティノがキャスティング・ボートの国になりつつあるとしたら（というより事実だが）、ヨーロッパのラテン系の国々が直面している難局を見て市場が「(アメリカに対する) 漠然とした不安」を抱くのは当然かも知れない、と思いました。無論のこと経済活動的には圧倒的に「白人男性」が支配的なのがアメリカ。ですが、「一人一票」の政治はそれとは大きく異なった独自の論理と結果を持っている。

欧州の情勢は、ニューヨークの株が先週後半に落ちていたときには、ちょうどヨーロッパのエンジンであるドイツ経済の先行き懸念が強かったし、ギリシャ各地ではこの新しい緊縮策を巡る反対運動が激しく行われている最中だった。緊縮策を巡る議会投票を控えての動きで、ギリシャ政府は「この緊縮策が議会を通過せずヨーロッパから新たな支援金が入らなければ、ギリシャ政府の国庫は底をつき大変な事になる」と警告していた。「大変な事」というのは政府が公務員に給与も払えなくなり、国家事業が止まるということです。

その後ギリシャ議会は与党から造反者を出しながらも緊縮策をギリギリで可決した。それで事態が好転したかというとどうやらそうでもないようで、この週末にはギリシャ支援に当たっているトロイカ内での「負担をどこが負うか」で対立が伝えられている。ギリシャの情勢は一山越えればまた次の山が待っているという状況で、綱渡りが続いている。

一方でヨーロッパの厳しい経済情勢（モノ、サービスが売れないという）を反映して、ドイツの今年と来年の経済成長率がプラスながらともに0.8%という惨めな数字になるのではないかと、との見方が広まっている。ドラギ ECB 総裁の発言も「ヨーロッパ経済の先行き懸念」の発端になった。米大統領選挙は終わったが、世界経済が依然として難しい局面にあることを思い起こさせる。今見たフィナンシャル・タイムズには「EU budget talks collapse」という物騒な記事がある。苦境深まる欧州では、一つ一つの合意事項をまとめるのにも苦勞するようになっている。

先週の株価急落の中で目立ったのは、79円台に移行したもののドル・円相場の安定だ。円高にはなったものの、そのペースは緩く、ニューヨークの株価の大幅下落の割には安定していたと言える。オバマ再選と財政の崖から来る米経済への懸念が強い中での動きで、「大きな円高トレンドは終息しつつある」との印象を受けた。

《 new leaders in China 》

今週は先週のアメリカに続いて中国（共産党）の次期トップが決まりますが、それにしても同国は、大きな矛盾を抱えた状況の中での新政権の発足です。それを端的に象徴するかのよう、「中国青海省同仁県で8、9の両日、チベット族の学生を中心としたデモがあり、地元政府庁舎前に最大約1万人が集まってチベットの自由を求めた」という。党大会開催中という、この警戒の厳しい中です。

今までの中国の成長は投資中心です。技術や資本は主に日本や海外の企業が持ってきて

いた。それに政府の投資が加わった。しかし消費は今でも GDP の 4 割に過ぎない。消費の割合は、他の先進国に比べていかにも少ない。今後投資が鈍ることが予想される中では、「GDP 倍増計画」の正否は「消費が増えるかどうか」にかかっている。しかし今のように格差が大きく、かつ年金制度も都市部の国有企業従業員、政府職員以外にはほとんどない状況では、消費が伸びようがない。年 7% 成長すれば 10 年で確かに GDP は倍増する計算ですが、「私はなかなか難しい」と見ます。例え出来たととしても国民間で大きなでこぼこができたままの達成になる。

国民が心置きなくより消費に向かえるようにするには、所得をより均一にするように今の「全ての権限と富が共産党員に集まる仕組み」を変えなければならない。つまり「共産党の一党独裁」に手をつけなければ出来ない筈です。しかし胡錦濤・総書記の過去 5 年間総括と今後の展望では共産党が国民の厳しい眼に晒されていることを認めながらも、「(共産党の) 一党独裁は手放さない」と宣言した。

中国で言うところの「群衆性事件」(大規模デモ、スト、警察署襲撃、警官に対する集団反抗・攻撃・暴行、土地収用に反対する住民の座り込みなどの騒擾事件) が年間 20 万件あたりも起きていること自体が、中国のいびつな成長を指し示している。格差、環境、警察や管理の横暴、不当な土地収用などに国民は怒っている。一触即発の状態だと思う。私がいつも思うのは。

1. 習近平という人は次の中国のリーダーになるらしいが、なぜ彼なんだろう。彼は 13 億の民を率いるほど優秀なんだろうか (世渡りがうまいだけのように思える)
2. 彼の上には江沢民や胡錦濤など長老が長生きしながら一杯いる。例え能力があっても中国の新たな舵取りは容易ではない (自分を選んでくれた人の意思を無視できない)
3. だとして、舵取りが難しい中で共産党が富と権力を手放さないのなら、胡錦濤が指摘した通り、「党が国民から見放される事態」が今後 10 年間の間のいつあってもおかしくない
4. もしかしたら、習近平は中国にとって最後の共産党総書記、国家主席になる可能性もある

と。それにしても私はチベットと新疆ウイグル自治区の両方に行きましたが、そこでは「民族そのものが抑圧されている」という苛烈な状況でした。パスポートさえ取れないのですから。チベットで僧侶の自殺が続発しているのが理解できる。

この二つの地域を見ただけでも、今の中国の体制の存続不可能性を感じます。

今週の主な予定は以下の通り。

11月12日(月)

7-9月期GDP(1次速報)

	10月企業物価
	9月第3次産業活動指数
	白川日銀総裁講演
	ユーロ圏財務相会合
	ロシア7-9月期GDP
	休場/米債券・為替(ベテランズ・デー)
11月13日(火)	EU財務相会合
	独11月ZEW景況感調査
	休場/インド、シンガポール、マレーシア
11月14日(水)	ユーロ圏9月鉱工業生産
	米10月小売売上高
	米10月生産者物価
	米9月企業在庫
	米FOMC議事録(10月23日・24日開催分)
11月15日(木)	月例経済報告
	バーナンキFRB議長が講演(アトランタ)
	ユーロ圏7-9月期GDP
	独7-9月期GDP
	仏7-9月期GDP
	伊7-9月期GDP
	スペイン7-9月期GDP
	米10月消費者物価
	米11月NY連銀製造業景気指数
	米新規失業保険申請件数
	米11月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
	休場/ブラジル、マレーシア、インドネシア
11月16日(金)	10月全国百貨店売上高
	米10月鉱工業生産・設備稼働率
	休場/インドネシア

《 have a nice week 》

週末は如何でしたか。だいぶ寒くなりました。今朝も早い段階では13度近辺と“冬”を思わせる気候。私もずっと喉風邪が抜けなくて苦闘していましたが、お医者さんからもらった薬でやっと少し良くなりました。皆さんも風邪にはお気を付けて。

ところで先週は一つ面白いプレゼン方法を試してみました。「睡眠への最善の誘い(いざない)」と私がかねがね思っている「PC+パワーポイント」のそれではなく、スマホをそ

のままプレゼンに使う方法です。というのは、私はずっと「PC+パワーポイント」が嫌いだったある会場を暗くし、画面をめくりながら説明をする..... 会場は暗いし、動きもないので参加者は眠ってしまう。だから「PC+パワポ」でプレゼンを最後にやったのは10年ほど前。

で、私は数年前までは「講演会のためのHP」(htmlを書けますので)を作成し、それをプリントアウトして聴講者の手元に置くと同時に、会場を比較的明るいままでサイトを動かしながらプレゼンする方法を採用した。しかし驚いてくれる人もいましたが、これも動的ではなかった。であるが故に、次に考えたのが動画の導入です。いろいろな番組をやってきましたし、いろいろ各地に行っているのでも、持っている動画が結構ある。動画は皆さん良く見て下さる。動くから面白いんでしょうね。時々画面を止めて説明。

しかし今までは動画を出すのにPCを使っていた。でも「もうPCの時代じゃないのに、こりゃいかん」と思っていたのです。そろそろ可能なところからPCを卒業しないと。「もうスマホで何事もする時代では」と考えた。で、昨日もそうだったのですが、ここ2回ほど「全部スマホでプレゼンする」を試しています。iphone4Sを直接プロジェクターに繋いでやるのですが、これが完璧に出来るんです。動画は「ビデオ」に入れて選択できるようにし、必要な資料はサイトに埋め込んでそれをスマホで表示する。今回は1ページだけ自分のサイトに新たに埋め込んだ。

昨日驚いたのは、PCから出す絵(動画)より、iphone4Sからプロジェクターを通じて出した絵の方が綺麗で鮮明だったことです。なぜだか分かりませんが、事前にいろいろ試して分かった。あとスマホは画面を伸縮できるので、話の焦点を明確に表示(字を大きくしたりして)できるのがよい。先週の講演には300人ほどの方がいらしていましたが、多くの方にとって「スマホでのプレゼン」は初めてだったのではないのでしょうか。質疑応答の時間がなかったのでも来ておられた方々に印象は聞けませんでした。代理店の人なんかは「初めてでした」と。それでいいんですよ。

銀座のアップルショップに先週も行ったのですが、iphone5とプロジェクターのコネクターはまだ入荷していないそうで、しばらくは「4S」でしょう。ま、まだまだ新しい方法を探して見ようと思っています。いろいろ工夫しながら。

それでは皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》